

共同助成(秋田県遊技業協同組合)

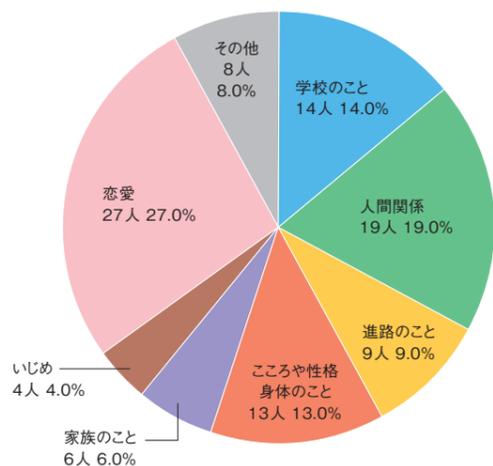
## 「高校生のためのいのちを支える」事業

### 若者に馴染みが深いLINEを活用して 自殺を減らすための取り組みを実施

自殺率が高いことで知られる秋田県。長年、全国ワーストに位置付けられてきたが、その一方で県内の様々な団体が取り組んできた自殺防止活動は「秋田モデル」として注目されるようになっていく。そうした団体の一つが、これまで企業経営者などを対象に行ってきた活動に加え、若年層の自殺予防に重点を置いた活動に取り組んだ。



「LINE」による相談を告知するチラシ



実際に高校生から相談があった内容の内訳

### 若年層の自殺予防対策の強化策として 高校生を対象にしたLINE相談を実施

2002年に設立されたNPO法人「蜘蛛の糸」は、秋田県の自殺者数を1998年時点の450人から200人以下にすることを目標に活動を続けている団体である。設立当初は多重債務などにあえぐ経営者の相談に応じ、その自殺者を減らすことに貢献してきたが、2009年には「いのちの総合相談会」を立ち上げ、秋田県の助成を受け、弁護士、司法書士、臨床心理士などの専門家と連携したワンストップ型の相談会を継続している。また、県や各市町村、大学、マスコミなどとネットワークを構築し、様々なシンポジウムや研修会による啓蒙活動を続けている。

これまでの活動に加え、同法人では若年層の自殺を大きな課題と捉え、若年層に向けた自殺予防対策を強化するために、秋田県内の高校生を対象に、SNSアプリ

「LINE」を用いて若者が気軽に相談できる事業を実施した。若者にとって敷居が低いLINEであれば気軽にアクセスできるうえ、匿名性が高いがゆえにその本音を聞き出すこともでき、より相談者に寄り添った支援につなげていくことができるという考えのもと、同法人の相談業務に携わってきた臨床心理士や産業カウンセラー、社会保険労務士、精神保健福祉士、スクールカウンセラーなどがチームを組み、相談員として従事した。

若者の相談に関しては未経験の相談員も多かったため、事前に若者心理に詳しい臨床心理士や精神保健福祉士を講師に招いて研修会を実施したうえ、LINE相談のシミュレーションも行い、実際の相談に備えた。また、高校生への周知として、県教育庁の協力を得て、県内すべての高校にチラシを配布したり、秋田駅前前で高校生にチラシを配布するなどした。

### 夏と冬の計20日間のLINEによる相談に 182件の延べ相談件数と94名の相談者数

LINE相談が実施されたのは夏休み明けの2018年9月1～10日、冬休み明けの2019年1月15～24日の計20日間。9月は8名、1月は10名の相談員でチームを組み、3名のシフト態勢で相談に応じた。9月の延べ相談件数は132件、相談者数は71名、1月の延べ相談件数は50件、相談者数は23名だったという。

相談内容としては思春期特有の悩みを訴えるものが多かったが、LINEだけでは実情が見えにくいケースや深刻なケースもあり、そうしたケースでは専用電話に切り替え、電話相談につなげたものもあった。高校生たちが悩みを訴えるなかで、「身近な大人に相談したけれど、軽く流されてしまった」という声も多く寄せられた。若者たちが悩んだときに信頼のできる大人とつながりにくく、だからこそSNS上でのやりとりが交わされるのだという現状が改めて浮き彫りになった。何に悩んでいるのかははっきりしなかったり、

本人もその悩みの本質を把握できずじたりするため、時間をかけて言葉によるやりとりを重ねていくことでしか探ることができない相談も多かった。

また、相談員側が若者言葉や文化に対して戸惑う場面もあり、若者心理に関する知識だけでなく、彼らのカルチャーに寄り添うことが大切で、その前提なしには相談というものが成り立たないという実感をも多くの相談員が持ったという。深刻な悩みになる前に、それを吐き出せる場所としてSNSによるLINE相談が機能できれば、若年層の自殺予防策として有効な手立てになるという手応えを感じたと同法人は話す。

### 秋田県遊技業協同組合より

県内の自殺者は減少傾向にありますが、若年層への対策としてLINEによる相談は、素晴らしい活動だと思います。今後も継続的な活動を願っております。



秋田市立御所野学院高等学校にて生徒向けの自殺防止講演会を実施



3月1日～3月26日まで、秋田県・青森県・岩手県の高校生以上の若者にもLINE相談を実施

助成団体:特定非営利活動法人 蜘蛛の糸

<http://www.kumonoito.info/>



### 若者の自殺対策に取り組んでいく大きな勇気をいただきました

この助成がなければ、当法人が未知の領域のSNS相談を開発するということはあり得ませんでした。若者の自殺対策が近年の課題ではありましたが、まだ具体的な事業計画が見えてこない中、一歩を踏み出すことができました。ここから秋田県内では大きなムーブメントに展開していくのではと確信しております。貴機構が背中を押してくださったことに感謝申し上げます。

特定非営利活動法人 蜘蛛の糸  
理事長 佐藤 久男さん